

平成19年度原子力試験研究に関する基本方針及び課題募集について（案）

平成18年4月25日
原子力委員会
原子力試験研究検討会

1．原子力試験研究の趣旨

原子力試験研究は、原子力の研究、開発及び利用に関する国の施策に基づき、国立試験研究機関及び独立行政法人等における原子力研究開発の基礎的・基盤的研究を効果的かつ効率的に推進することを目的とし、文部科学省による経費の一括計上のもと実施されている。

原子力試験研究の実施においては、研究開発活動の効率化・活性化を図り、より優れた研究開発成果の獲得、優れた研究者の養成を推進し、社会・経済への還元を図るとともに、国民に対して説明責任を果たすため、全研究課題を対象として、内閣府原子力委員会研究開発専門部会に設置されている原子力試験研究検討会による事前、中間及び事後の研究評価が実施されている。研究評価においては、研究の方向性や研究計画の見直し等についての助言・指導が行われるとともに、評価結果に基づき、新規課題における採択の可否、継続課題における継続の可否、及び予算配分への反映等が行われている。

以上の趣旨を踏まえ、平成19年度における原子力試験研究に関する基本方針及び課題募集については、以下のとおりとする。

2．基本方針

厳しい財政事情のもと、限られた経費を重点的、効率的に配分し、研究開発を推進していく必要がある。このため、平成19年度における原子力試験研究の実施に関する基本方針を以下のとおり定めることとする。

- (1)実施する研究課題は、研究機関の設置目的（独立行政法人については、中期目標も含む）に合致し、その達成に資するものとする。
- (2)「原子力政策大綱」（平成17年10月、原子力委員会決定）に示された基本目標、共通理念及び基本的考え方を踏まえ、原子力開発利用の技術に関する基盤を維持し新たな概念を生み出すために推進すべき基礎的・基盤的な研究開発を重点的に

実施する。

- (3)既に確立された原子力利用技術、RI や放射線の単なる利用・応用に係わる研究は実施しない。
- (4)各分野の状況を踏まえつつ、採択基準を引き上げる等により、採択に当たっての課題の質の向上を図る。

3．課題募集

平成19年度は、上記の基本方針及び以下の各項目を要件として研究課題の募集を行うこととする。また、原子力試験研究検討会の適切な事前評価を受けるため、別紙、原子力試験研究の分類（案）を参考に応募を行うものとする。

また、原子力試験研究における継続課題との類似性、他の競争的資金及び研究所内予算の受給状況についても事前評価の対象とする。なお、応募のあった全ての新規課題に対し必要に応じて、原子力試験研究検討会研究評価WGによる「原子力試験研究として研究を実施することについての妥当性」に主眼を置いた書類一次審査*を実施し、ヒアリング課題の絞り込みを行う。

- (1)研究課題の提案は原子力に関する関係行政機関から募集する。
- (2)前年度（18年度）終了課題の単なる継続と見受けられるものは除く。
- (3)提案にあたっては、日本原子力研究開発機構、放射線医学総合研究所、大学及び民間などとの連携協力等により研究を効率的・効果的に進められるよう留意すること。
- (4)総合的研究（クロスオーバー研究）については、募集を行わない。

*：書類一次審査の実施方法等については、各分野の実情に応じて、各研究評価WGにおいて協議のうえ、別途定めるものとする。

原子力試験研究の分類(案)

記号	大分類名	小分類名及び説明
A	先端的基盤研究	<p>物質・材料基盤技術</p> <p>新材料の開発や物質・材料等の分析・計測技術の高度化を図るための基盤的技術（各種ビームの先端的利用等）の開発に関する研究。</p> <p>工業利用なども含むが、原子力試験研究の成果の適用により新たな基盤技術の確立に資するものであること。</p>
		<p>システム基盤技術</p> <p>原子力防災に資する耐震・防災技術、放射性廃棄物の地層処分等バックエンド対策技術、プラント等の保守性向上に資するメンテナンス技術等、システムの基盤的技術の開発に関する研究。</p>
		<p>生体・環境影響基盤技術</p> <p>放射線による生体影響の検出・解析、環境・生物中の核種移行など、生体・環境への影響を解明するための先端的技術の開発に関する研究。</p> <p>放射線による品種改良、食品等の保存、滅菌、新たな診断・治療法、環境モニタリングなどに関する研究も含むが、原子力試験研究の成果の適用により新たな基盤技術の確立に資するものであること。</p>
B	総合的研究 (加スオーバー研究)	<p>個々の研究機関単独では速やかに成果を得ることが困難な多岐にわたる技術開発要素からなる研究。</p>

(昨年度までの防災・安全基盤技術分野については、システム基盤技術分野へ名称を変更するとともに、内容を一部修正した。また、知的基盤技術分野については、先端的基盤研究のうち関連する分野にて応募のこと。)

平成 18 年度の分野ごとの研究課題当たりの年間平均額

例年の募集に当たっては、1 課題当たりの予算額について問合せがありますが、平成 18 年度の分野ごとの平均は以下の通りですので、これを参考にして応募をお願いします。

	平成 18 年度新規・継続 全課題の平均予算額	平成 18 年度新規採択 課題の平均予算額
物質・材料基盤技術分野	約 1 千 8 百万円 / 年	約 1 千 9 百万円 / 年
防災・安全基盤技術分野	約 1 千万円 / 年	約 8 百万円 / 年
生体・環境影響基盤技術分野	約 9 百万円 / 年	約 7 百万円 / 年